

タイトル「**2022年度危機管理学部(公開)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT1311S		
科目名	行政リスクガバナンス		
担当教員	吉田 正法,小谷 賢,金山 泰介,鈴木 秀洋,安藤 貴世,瀧川 修吾,大八木 時広,吉富 望,宮脇 健,上野 幸彦,杉山 幸一,古谷 洋一,田上 雄大,宮川 正		
対象学年	1年	開講学期	後期
曜日・時限	木 2		
講義室	1310	単位区分	必
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門基幹科目		
科目小分類	専門基礎		
科目の位置付け（開発能力）	■DPコード - 学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関係 DP1-E [学識・専門技能] 専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP4-I [理解力・分析力] 文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取舍選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 DP6-K [表現力・対話力] 文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。 ■CRコード - 学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック (CR) との関係 B1 自己啓発 (10%) E1 学識と専門技能 (40%) I1/I3 理解・分析と読解、情報分析 (20%) K1/K2 ライティングコミュニケーション、オーラルコミュニケーション M1 統合的・応用的学修 (10%)		
教員の実務経験	各回を担当する教員それぞれの実務経験などを踏まえ、「行政キャリア」の特性に対する理解を深めることができるよう、実務的な視点を交えながら支援したいと考えています。（第2回～第14回）		
成績ターゲット区分	■成績ターゲット 能力開発の目標ステージとの対応 2 進学期～3 発展期		
科目概要・キーワード	危機管理学部は、現代社会が求める、危機管理に必要な知識、技能、マインドをもった人材を社会の各層に送り出す使命をもっています。例えば大規模自然災害を念頭に置くと、救急対応や治安維持、生活再建や復旧復興などの局面で、国及び地方の行政（公務員）が連携しつつ、その対応に当たることとなります。その一方で、鉄道等の運輸機関、電力等のライフライン、影響を受け得るメーカー等の企業は、民間レベルでも危機管理を行っていくこととなります。むろん行政と企業とが協調することは重要ですが、この両者は、それぞれ目的と根拠法が異なることも確かです。そこで危機管理学部では、2年進級時、「行政キャリア」または「企業キャリア」を選択し、それぞれの業務の特性をしっかりと理解したうえで、皆さんが社会で業務に当たれるように配慮しています。本講は、皆さんが必要かつ十分な情報をえて自身の将来展望を明確に持てるよう、「行政キャリア」において行われる危機対応＝リスクガバナンスを体系的に理解し、また「行政キャリア」の業務において必要とされる学識等と専門科目の対応関係を把握することを目的とします。 授業形態は講義形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 ■キーワード 行政、キャリア、リスクガバナンス		

授業の趣旨	■副題 2 年次以降の体系的な学修プラン構築のために、自らキャリアプラン及び領域の選択ができるための知識・技能を培い、態度を養成します。 ■授業の目的 行政の特徴を踏まえ、行政における危機対応（リスクガバナンス）を体系的に理解するための基礎知識を学びます。また、行政における危機管理を具体的に想定し、そこで必要とされる学識や技能等と領域ごとの学修内容との対応関係を把握するための基礎知識を学びます。 ■授業のポイント 本科目では、第 2 回～第 1 4 回授業において、毎回異なる教員がそれぞれの専門分野について、4 つの領域や実務経験などを踏まえて講義を行います。	
総合到達目標	■授業を通して各自の将来展望を明確化し、キャリアプランの選択及び学修領域の選択を適切に行うことができる。 ・行政キャリアにおいて行われる危機対応を理解し、行政キャリアを選択すべきか判断することができる。（第 2 回～第 1 4 回） ・主専攻・副専攻とすべき領域を適切に選択し、選択領域における学修計画を立案することができる。（第 2 回～第 1 4 回）	
成績評価方法	■授業参加度（100%）：適用ルーブリック B1・E1・I1/3・K1/2・M1 （評価の観点）各授業回で実施する「リアクションペーパー」または「振り返りシート」について、キャリアと領域における学修内容を考察し、自らの考えを具体的に述べているかを評価します。	
履修条件	必修のため、特にありません。	
履修上の注意点	第 2 回～第 1 4 回授業は、毎回異なる教員がそれぞれの専門分野に関する講義を行います。キャリア・領域を正しく選択するため、必ず毎回出席して下さい。	
授業内容	回	内容
	1	①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 講義の全体の構成、講義の目的と進め方、到達目標、成績の評価方法、リアクションペーパーまたは振り返りシートの提出などについて説明し、受講者が受講の準備を整えられるようにする。 ③予習（120分） 学部要覧の内容を精査する。特にキャリアと領域について確認し、専門科目にどのような科目があるかを確認しておく。 ④復習（120分） ガイダンスを振り返り、講義の目的と到達目標を確認する。
	2	①授業テーマ 災害等の危機から住民を守るための行政・行政職員の組織対応 - 災害マネジメント領域Ⅰ・パブリックセキュリティ領域 ②授業概要 災害時に住民の命を守るのは行政の責務である。行政はそのため何をするべきなのか。一般的抽象的な「住民」対策は意味がなく、目の前の子ども、妊産婦、高齢者、障害者等いわゆる社会的弱者といわれる住民一人ひとりの命を守るための制度設計が求められる。本授業においては、具体的な避難や避難所の在り方について学びます（B1・E1・I1/3・K1/2・M1）。 担当教員の実務経験を踏まえて指導します。 ③予習（120分） 鈴木『』『社会的弱者にしない自治法務』、第一法規、第 7 章を読む。 ④復習（120分） 鈴木秀洋『社会的弱者にしない自治法務』、第一法規、第 7 章をまとめる。
	3	①授業テーマ 災害時の行政からの情報伝達と住民の意識について - 災害マネジメント領域Ⅱ・情報セキュリティ領域 ②授業概要 災害時に与えられる警報など行政からの情報の仕組み、運用の方法について理解し、必要とされる学識等と専門科目との対応関係を述べるができる（B1・E1・I1/3・K1/2・M1）。 ③予習（120分） 事前に資料配付するので、そこに書かれているインターネット記事などを閲覧して調べておくようにする。 ④復習（120分）

	授業中に行った受講生への択一式の質問について、再度検討し、理解がどの程度深まったのかを確認する。
4	①授業テーマ 国内外での災害などの危機管理 - 災害マネジメント領域Ⅲ・グローバルセキュリティ領域 ②授業概要 国内外での大規模な災害などに携わる組織について理解し、必要とされる学識等と専門科目との対応関係を述べることができる（B1・E1・I1/3・K1/2・M1）。担当教員の実務経験を踏まえて指導します。 ③予習（120分） インターネットや図書館などで授業テーマに関する参考文献を確認しておく。 ④復習（120分） 講義中にノートに書き留めたメモを整理し、理解がどの程度深まったかを確認する。
5	①授業テーマ パブリックセキュリティ領域の概要と警察行政総論 - パブリックセキュリティ領域Ⅰ ②授業概要 パブリックセキュリティ領域は、様々な危機のうち犯罪や事故に対処するための法制度、政策等を学びます。その手段として、大きく犯罪対策のための行政的措置と刑事司法措置に分けられます。本授業においては、パブリックセキュリティ領域Ⅰで犯罪対策のための行政的措置を、パブリックセキュリティ領域Ⅱで主に警察が行っている個別の犯罪対策を、パブリックセキュリティ領域Ⅲで刑事司法手続を、それぞれ説明します。 パブリックセキュリティ領域Ⅰでは、犯罪対策閣僚会議によって策定された様々な犯罪対策のための政策を中心に、関係省庁が展開する総合的な犯罪対策について説明できる（B1・E1・I1/3・K1/2・M1）。 担当教員の実務経験を踏まえて指導します。 ③予習（120分） 事前配付資料を精読するとともに、犯罪対策閣僚会議が策定した「犯罪に強い社会実現のための行動計画」に目を通しておく。 ④復習（120分） 講義ノートを整理し、社会の安全を確保するための政策枠組みを理解するとともに、国民の権利自由とその規制による社会安全確保の必要性について考察する。
6	①授業テーマ 治安課題への対応 - パブリックセキュリティ領域Ⅱ ②授業概要 最近の重要な治安課題である(1)サイバー犯罪、(2)特殊詐欺、(3)ストーカー等の親密圏内犯罪（人身安全関連事案）を取り上げ、警察における取組を中心に説明します。この回の講義を通じ、犯罪対策における迅速かつ広範な施策展開の重要性について具体的に説明できるようになる（E1・I1・M1）。 担当教員の実務経験を踏まえて指導します。 ③予習（120分） 令和3年版『警察白書』の関連部分（15-36頁、51-52頁、77-84頁、90-91頁、111頁）を読むほか、インターネットで関連報道を検索して被害実態のイメージをつかんでおく。 令和3年版警察白書 https://www.npa.go.jp/hakusyo/r03/index.html ④復習（120分） 講義ノートの内容を整理し、それぞれの施策の特徴や課題・限界について考察・理解する。
7	①授業テーマ 刑事司法手続 - パブリックセキュリティ領域Ⅲ ②授業概要 犯罪と法との関係について、権力分立との関係から理解することができます。すなわち、刑罰の対象となる「犯罪」行為は、議会の定める「法律」によらなければならず、犯罪に対処する法執行に関しては、権力の濫用を防止するために裁判所による司法的なチェックが制度化されるとともに、厳格な刑事裁判手続が採用されているのです。そこで、犯罪の捜査から刑事事件が処理されるプロセスを中心に、刑事司法手続の概要について把握します。この授業を通じ、犯罪捜査における司法的規律及び基本的な刑事裁判制度について理解し、説明できるようになります（E1・I1）。 ③予習（120分） 上野幸彦・古屋等著『国家と社会の基本法 第4版』、60-66頁、237-247頁を事前に読む。 ④復習（120分）

	被疑者・被告人の憲法上の権利を整理するとともに、刑事司法手続の基本原則と手続の概要をまとめる。
8	①授業テーマ 国民国家と国境・戦争と難民 - パブリックセキュリティ領域Ⅳ・グローバルセキュリティ領域 ②授業概要 皆さんの眼前にある国民国家とは、そもそも如何なるものなのか。そして国民国家の間で生じる戦争（総力戦）とはいかなるものなのか。これらにつき、国境や難民、出入国管理といったキーワードを踏まえつつ、皆さんがそれらに関する基本的な事項を理解し、国家や戦争について主体的に論じることができるよう、皆さんとの対話を基調としながら講義を進めたいと思います（B1・E1・I1/3・K1/2・M1）。 ③予習（120分） 国民国家（nation-state）など、キーワードの定義を確認しておき、戦争はなぜ発生するのかについて、各自で考えをまとめてくる。 ④復習（120分） 講義中にノートに書き留めたメモを整理し、理解がどの程度深まったかを確認する。
9	①授業テーマ 外交に携わる仕事と国際法 - グローバルセキュリティ領域Ⅰ ②授業概要 外交、すなわち国家間関係の構築において重要な役割を果たす外務省職員（外交官）について、その多様な職務内容を理解するとともに、国際法がいかなる場面で活かされるかについて学修する。そのうえで、必要とされる学識等と専門科目との対応関係を述べるようになる（B1・E1・I1/3・K1/2・M1）。 担当教員の外務省における実務経験を踏まえて講義を行います。 ③予習（120分） 外務省、外交官に関する最近のニュースについて、新聞記事、インターネットなどを検索し調べる。 ④復習（120分） 講義ノートを見直し、外交の場面において国際法がいかなる役割を果たすかについて復習・確認する。
10	①授業テーマ 欧州の主要国の外交・安全保障 - グローバルセキュリティ領域Ⅱ ②授業概要 欧州の主要国の外交・安全保障について、歴史的・政治的背景、組織、運用などについて理解し、必要とされる学識等と専門科目との対応関係を述べるようになる（B1・E1・I1/3・K1/2・M1）。 ③予習（120分） インターネット（外務省HPなど）や図書館などで授業テーマに関する参考文献を確認しておく。 ④復習（120分） 授業中にしっかりとノートテイキングをおこない、それを振り返りつつ理解度を確認する。
11	①授業テーマ グローバルセキュリティ領域における情報の役割 - グローバルセキュリティ領域Ⅲ・情報セキュリティ領域 ②授業概要 サイバー上の偽情報対策について説明できるようになる（B1・E1・I1/3・K1/2・M1）。 ③予習（120分） ロシアのウクライナ侵攻における偽情報について調べてみる。 ④復習（120分） サイバー空間の偽情報について我々ができることについて考えてみる。
12	①授業テーマ 社会における情報の取扱い - 情報セキュリティ領域Ⅰ ②授業概要 現代社会における情報の取扱いについて説明できるようになる（B1・E1・I1/3・K1/2・M1）。 ③予習（120分） 情報取扱いでの注意点を調べておく。 ④復習（120分） 情報の取扱いについて自分なりの考えをまとめておく。

	13	①授業テーマ 行政の情報管理法制と国民のプライバシー権保障について - 情報セキュリティ領域Ⅱ ②授業概要 行政による情報管理に関する法制度について理解し、この法制度と憲法第13条が保障する「プライバシー権」との関係について理解し、必要とされる学識等と専門科目との対応関係を述べるができる（B1・E1・I1/3・K1/2・M1）。 ③予習（120分） インターネットや図書館などで授業テーマに関する参考文献を確認しておく。 ④復習（120分） 講義中にノートに書き留めたメモを整理し、理解がどの程度深まったかを確認する。
	14	①授業テーマ 国家レベルの危機管理・事態対処について - 4 領域共通 ②授業概要 国家レベルの危機管理・事態対処について、組織・法的枠組み・運用などについて理解し、必要とされる学識等と専門科目との対応関係を述べるができる（B1・E1・I1/3・K1/2・M1）。 担当教員の実務経験を踏まえて指導します。 ③予習（120分） インターネットや図書館などで授業テーマに関する参考文献を確認しておく。 ④復習（120分） 講義中にノートに書き留めたメモを整理し、理解がどの程度深まったかを確認する。
	15	①授業テーマ 総括・振り返り ②授業概要 本科目における自身の学びを客観的に振り返り、各到達目標についての自己評価を行うことができる。本科目における達成状況を参照しながら、次年度に向けた具体的な目標を策定することができる（B1・E1・I1/3・K1/2・M1）。なお、教員が全体講評によりフィードバックを行います。 ③予習（120分） 本科目の授業資料やノートを再度全体的に読み直し、科目を通じて自分が修得した知識・技能・態度について説明できるよう準備する。また、到達度が十分でないと感じる部分がある場合は、再度授業資料などをまとめ直し、不明な点を説明できるようにする。 ④復習（120分） 授業総括を振り返り、到達度に関する自分の考えを再検証する。学部要覧を確認し、次年度に履修すべき専門科目を検討する。
関連科目	企業リスクガバナンス（RMGT1310S）	
教科書	必要に応じて各回の授業内容に記載しています。	
参考書・参考URL	危機管理学部要覧2022の各履修モデル。必要に応じて各回の授業内容に記載しています。	
連絡先・オフィスアワー		
研究比率	災害25%、パブリック25%、グローバル25%、情報25%	

